

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（栄川中学校区・R6.7.22開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	少子高齢人口減少	掛川市は人口減少地区とその増加地区の差が大きいがまずはその解消を考える必要があると思います。掛川市はその点どう考えているのか。（西山口は増加しているが、東山口は減少している）	掛川市と同等の面積がある自治体ではこうした現象が起きやすく、他の自治体でも同じです。先ほどの東山口・日坂東山地区の御質問と通ずるところがありますが、この地域はこれまで農業振興地域として整備してきました。地区の人口減少に対し、青地を全て解消して住宅地を作って人口増加策を立てるかという、それは現実的にありえません。やはり街の中心部にまだ住む場所があるとすると、住居系の土地利用は街中が中心、では周辺をどうするかという、公共施設の再配置や周辺部のまちづくりを考えていくことが重要です。具体的には、人口減少に伴う移動の支援、高齢者の見守りを含めた地域福祉、自治会活動の存続等について、公共施設の再配置に伴って合わせて進めていく必要があると考えています。	
2	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	日坂・東山口地区を掛川市としてどうしたいのか？ 例えば農業を中心とした地区にしたいとか。	歴史的経緯からすると東山口・日坂東山地区は農業を中心に設備投資（農道・圃場整備・灌漑排水など）が行われてきたので、市としては農山村としての土地利用を考えています。今後人口が減っていく社会の中で、中山間地域も含めて農山村のあり方をどうしたらいいかという事は命題だと思っています。本日の議題は公共施設の再配置ですが、再配置により施設、核となる施設が無くなるということは、地域にとって心配事もたくさんあると思います。再配置を進めるにあたり、不安を払拭するためにどのようなまちづくりを描いていくか、一緒に考えていきたいと思っています。	
3	再配置の方向性	個別施設の方向性	さかがわ幼稚園は令和10年までに譲渡の方針でいますが、譲渡単価の折り合いが付かなくても相手先があれば譲渡するのか。	検討した結果、譲渡になれば地元に御報告します。譲渡先を広く求めていく可能性もありますが、地元で運営している園を含め進めていきたいと思っています。状況としては今年1月頃に説明した内容が一番新しい情報です。	
4	再配置の方向性	個別施設の方向性	さかがわ幼稚園は現在、こども園にして行くように検討しているということか？	地元の皆さまと、令和2年度頃からワークショップやあり方検討会を行い、現時点では令和10年度までの検討期間として認定こども園化を含め、あり方を検討していくこととしています。今後も年1回は地元の皆さまに情報を提供したり、実際に利用することになる未就学児、0～2歳児を有する親御さんへ御意見を聞く等し、アンケートも活用しながら検討していきたいです。	
5	再配置の方向性	個別施設の方向性	さかがわ幼稚園の譲渡を検討しているが、千羽すびか保育園のような問題が起きる可能性は？	千羽すびか保育園に限らず、同様のことがないよう、各園を訪問・助言していきたいと思っています。また、県、市の指導監査がありますので、そこで指導していきます。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
6	再配置の方向性	個別施設 の方向性	対象施設の中に地域生涯学習センターがある。各地区の集会施設で各種活動の拠点であり、これを統合するのは日坂・東山にとって非常に厳しい。仮に統合する場合、自治会の再編もセットになるか？	拠点を1つにするから必ず自治会も1つにしなければならないとは考えていません。一方で人口減少等もあり、自治組織の運営が難しいと御相談頂くこともあります。地区からお話しがあればその都度一緒に考えていきたいと思っています。 例えば大須賀の地区センター、学習センター（地域まちづくり協議会事務所）は大須賀支所内に3地域が同居、同部屋の中に3つの事務所が入り会議室等を共用しています。市からは自治会やまちづくり協議会の再編を含めたお話しはせず、建物のお話しをしたいと思っています。自治会等の再編について地域から御相談があれば、公共施設の再配置とは別の問題として対応したいと考えています。	
7	再配置の方向性	個別施設 の方向性	東山センターは2011年に耐震工事をやったが、耐用年数は変わらないのか？新たに耐用年数を増やす工事をやる場合、地元負担金が耐震工事と同じようにあるのか？	耐用年数は躯体の構造（木造・鉄骨造・RC造等）で法定年数が決まっているので、年数自体に変更はありません。新たな工事については施設の状況を見ながら、また東山地域生涯学習センターをどう活用していくかということも含めて、小中学校複合化の際と一緒に地元の皆さまと議論していきたいと考えています。	
8	再配置の方向性	小中学校の再編	“複式学級の恐れ”と説明がありました。意味としては、①怖がる気持ち、恐怖、不安。②よくないことが起こるかもしれないという心配。となっています。来年は複式学級になります。少人数とか複式学級は市にとってマイナス面のみの評価でしょうか。	「おそれ」は我々としては可能性があるという意味で使用しています。複式学級は教職員の目が届きやすいという面も当然あると思いますが、2つの学年を1人の教員が見ることになるので単なる少人数学級とは異なる様々な課題があり、複式学級については解消した方がいいと考えています。	
9	再配置の方向性	小中学校の再編	学校再編で栄川中学校区は1学年1クラスしかないが、学区の統合や分割はしないのか。	基本的には中学校区単位で検討していきたいと考えていますが、将来的な人数の動向によっては学区を再編する必要も考えられます。近隣の学区の再編を検討する際に一緒に検討していくことになります。	
10	再配置の方向性	小中学校の再編	日坂小学校の統・複合について、東山口地区ではどの位話しが進んでいるのか？	まだ東山口地区では話は進んでいません。現在は日坂地区で地域の皆さまが主体となり日坂小・東山口小の統合について話し合いを行っており、秋にまとまる予定です。結論として東山口小との統合となった場合には、東山口地区の皆さまと話し合いの場を設けていきたいと考えています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
11	再配置の方向性	個別施設 の方向性	今回市では「文化財保存活用地域計画」が認定され、その中では身近な伝説や方言、地名等も文化財として定義されていると聞く。そのような状況の中、今回日坂「扇屋」の建物廃止が提案されている。小夜中山の歴史的背景はご存じの通り地元のみならず各地より訪れ、歴史的意味合いも含め関心を持つ人も多い。訪れる人の多くは峠の茶屋「扇屋」に立ち寄られ、その評価も高い。建物の老朽化となっているが、修繕または新たな小さな茶屋を建てても良いのではないか。観光施設として必要な施設である。	扇屋は以前から耐震の問題があり、対処療法として改修工事ですべて修繕を行ってきましたが、建物の老朽化が著しく、改修が劣化に追いつかなくなってきました。何度か現地を訪れましたが、屋根の峰部分が波打ってしまい非常に危険と感じました。躯体の維持だけでなく、安全性の担保も困難になってきており、費用対効果の観点からも問題があることを御理解頂きたいと思っております。 一方、現建物は明治時代以降のもので文化財的価値は高くないということですが、あの場所に江戸時代から茶屋が存在していることは全国的に見ても希少性が高く、そのことを後世に伝えていくことは重要と認識しています。東海道の宿場で茶屋が残っているのは箱根と日坂のみであり、検討期間で地元の皆さまとあらゆる可能性を検討していきたいと考えています。御質問いただいたような修繕・もしくは新たな茶屋を建てても良いのでは、ということについても話し合いをしていきたいと考えています。昨年度まではあまり検討機会がなかったと聞いていますが、今後は膝を突き合わせながら議論させて頂ければと考えています。	
12	再配置の方向性	個別施設 の方向性	小夜の中山の扇屋の廃止検討について、川坂屋の会として郷土唱歌「小夜の中山」を知っているか？	唱歌を存じ上げなかったもので、調べてみます。 ありがとうございます。	
13	再配置の方向性	事業実施の財源	財源が30億円の不足なのにこの計画通り出来るのか。イレギュラーがあった時はどうするのか。	冒頭に全て建替・維持していくと年間70億円かかり、用意できる財源は年間40億円で、年間30億円が不足するとお話しいたしました。更新素案でお示しした内容がそのまま進んだ場合、30億円の差を埋めることができるという試算です。年間40億円は用意可能な財源と見込んでおり、これを使いながら統合や複合化に必要なものをこなしていきたいと考えています。計画通りに行けば延床換算で25%削減を実現できる計画となっています。ただ、もちろんイレギュラーはあり、あくまでも計画は方向性を示したもので、皆さまとの協議の中で変更も出てきます。当初計画から5年経過して大きな変化があったため、今回更新を進めています。期間として5年がどうかということは置いておき、ある程度経った中で計画通り進んでいるかいないか、市で原因や調査をし、その結果、計画を変えた方がいいということであれば順次見直しし、イレギュラーにも対応していきたいと考えています。	
14	再配置の方向性	縮充	公共施設も同居するだけではワンストップ化はできない。施設と施設をつなぐコーディネーターが必要だと思う。今までさえたらい回しが多い。	仰るとおり、同居だけではワンストップ化はできず、いい効果も生まれません。また、たらい回しが多いという点は申し訳ございません。我々の運営方法の改革も必要と思いますが、公共施設においては、ただ同居するだけでなく、そこに至るプロセスが大事だと思っています。何を一緒にして何を狙い、どういう使い方があって課題は何か等、実際にお使いになる方々を含め、建てる前に対話をしながら作り上げていく過程が必要と考えています。再配置のように何かを建て替えるような際は、出来るだけ多くの皆さまに御意見頂きながら進めていきたいと思っています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
15	検討の進め方	市民意見	住民が納得できないときはどうするのか？	現在はあくまでも計画として、建物が傷んでくる時期を踏まえて検討や地域の皆さまと話し合いを始める時期をお示ししました。一定の方向性は出しているが、詳細は皆さまと協議を進めていきたいと考えています。	
16	再配置の方向性	個別施設の方向性	東山口小と日坂小と統合した後、東山口地域生涯学習センターと日坂地域生涯学習センターは統合するということか。	東山・日坂・東山口地区のそれぞれにコミュニティがあり、学習センターも各々あります。まずは耐用年数が来るまで安全に使用頂くことが第一であり、それぞれコミュニティがあるため活動拠点も必要と認識しています。今後耐用年数が来た時に施設をどうするかということについては、先ほどの説明にもありましたが、それぞれに1つの拠点を準備する必要もあると思うので、それぞれの地域コミュニティにこういった形で拠点を残すのか、協議していきたいと考えています。	
17	再配置の方向性	個別施設の方向性	統合後の学習センターがどの様になるのか。		
18	再配置の方向性	個別施設の方向性	日坂小学校と東山口小学校の統合後、日坂小学校の建物活用について複合化と考えてよいか。現在の「日東学童保育所」は現在地におくのか。	統合後、日坂小学校跡地の建物をどのように使っていくか、更地にするのか等、場所の利活用については跡地になることが決定した後に皆さまと共に検討していきたいと考えています。使用者が市・地域・民間等色々な手法があるので、どのような方法が一番良いのか検討します。日東学童保育所の場所についても日坂小学校統合のタイミングで議論したいと考えています。	
19	検討の進め方	市民意見	再配置方針素案について、地区としての要望等は受け付けるのか。	先ほど御説明したスケジュールで進めていきたいと考えており、御意見として頂けるならば考慮しながら案を作っていくと考えています。今回の更新素案は位置と方向性を示したもので、これで決まりということではなく、皆さまと一緒に考えていきたいと思います。必ずしもこのタイミングまでに間に合わないダメではない、ことを御了承いただきたいと思えます。	